

授業記録タイトル：ツキノワグマが教えてくれること

教科：道徳

対象学年：小学3年生

執筆者：高田保彦

準備する教材：-

参考文献：資料1：ツキノワグマのクロちゃんの写真（『クマともりとひと』日本熊森協会0798-22-4190）

資料2：DVD『自然の森の中でのツキノワグマ』（NHK放送番組より）

資料3：山陰中央新報『クマ目撃情報 宍道で新たに2件』'07.5.3付

資料4：『殺されたクマの写真』（「地球の子ども新聞」03-3703-9468 No.88所収）

資料5：『しまねレッドデータブック』（1997 島根県）

資料6：『地球の子ども新聞』No.88

ねらい：

ツキノワグマを例に、環境問題や絶滅しそうな動物への意識を高めてもらう。そのうえで、地球環境を守るために、自分たちができることを考えてもらう。

Step 1 =====

ツキノワグマのクロちゃんの写真（資料1）を見せる。

発問 これは何でしょう？

子どもたちは、すぐに「クマだ、クマだ」と反応した。

その後正式名称である、ツキノワグマであることを確かめる。

Step 2 =====

発問 ツキノワグマについて、どんなことを知っていますか？

子どもたちからは、「胸に白い月がある」、「ドングリを食べる」という答えが返ってきた。

ツキノワグマについてさらに詳しく知らせるために、映像を見せた。（資料2：DVD『自然の森の中でのツキノワグマ』）画面には、野生のツキノワグマが蜂蜜を食べたり、栗をイガごと食べたりする様子が7分間映し出された。子どもたちは初めて見た様子で、驚いたり、笑ったりとても興味をもって見ていた。

Step 3 =====

1枚の新聞記事を配った。(資料3:山陰中央新報『クマ目撃情報 宍道で新たに2件』'07.5.3付) **こ**
れ、知ってるという声上がる。実際、子どもたちはクマ出没のため集団下校をこの時期にしていたのである。

発問 捕まったクマはこの後どうなると思いますか？

子どもたちは、口々に**殺された**と言った。

島根県では2004年度は66頭、2006年度は28頭のクマが殺されたことを述べる。さらに、殺されたクマの写真も見せた。(資料4) 子どもたちからは、**かわいそう**という声上がった。

Step 4 =====

発問 クマはなぜ人の住むところに現れるようになったのでしょうか？

すぐに、**ドングリがなくなったからだろう**と正解が出た。その通りであることを述べて、次のようにつけ足す。

「クマが人里に現れるようになったのは、山にえさがなくなったからです。」

「スギやヒノキは木の実をつけないし、葉っぱは苦くて食べられません。仕方がないので人里に降りて来るようになったのです。」

Step 5 =====

発問 ツキノワグマは島根県にどのくらいいると思いますか？

60頭くらいか、それよりさらに少ないだろうという予想が大半であった。

実際は、多くても700頭くらいであることを知らせる。

しかし、その数はだんだん減っており、『しまねレッドデータブック』に載っていることも知らせる。

Step 6 =====

発問 なぜ、ツキノワグマはこんなに減ってしまったのでしょうか？

ドングリがなくなったからと答えが返ってきたので、正解であることを告げ、おおよそ以下の説明をした。

解説

「理由は2つあります。1つは、えさがなくなったからです。」

「日本の国は昔、ドングリの木を切って、代わりにスギをたくさん植えました。スギはまっすぐで、家を建てる時柱に使いやすいのです。たくさんドングリを切って、スギを植えました。だから、森はスギだらけになり、えさがなくなったのです。」

「地球温暖化で今まで発生しなかった虫がたくさん発生するようになりました。その虫が木の実を食べつくして、ますますえさはなくなりました。」

「2つ目は、山に住みかがなくなったからです。」

「クマは冬の間どうしていますか。（c「冬眠」）でも、映像で見たような、冬眠ができる大きなうろがなくなったのです。」

「先生は、ツキノワグマを保護する活動をしている日本熊森協会の安部さんに、どうすればいいかを聞きました。安部さんは、こうおっしゃいました。

ドングリを集めて山に届けること、ドングリの苗木を育てること、この話を家族や友達に伝えること、大きくなったら一緒に森を守る活動をする。」

そして、『地球の子ども新聞』No. 88 を見せる。紙面には、ドングリを山に届けたり、広葉樹の植林活動をしたりする日本熊森協会の活動風景が紹介されている。

Step 7 =====

発問 わたしたちはどうすればいいと思いますか？

・ドングリを山に持って行く。

・木を植える。

・山を大切に作る。

・木を切らないようにする。

・山に行ったとき、残飯を残さないようにする。

・子どもたちの考えは、案外核心を突いていた。

Step 8 =====



課題 「今日の勉強で学んだこと」を書きましょう。

・人間が死んだらかなしいでしょう。だからクマが死んだらおなじきもちです。だから、クマをころさないでください。

・クマを人はすぐころしてしまうでしょう。ぼくは、「かわいそうだな。」と思いました。地球おんだんかを、できればみんなの力でとめたいです。

・ツキノワグマがぜつめつすることを知らなかったです。大事にしたいと思いました。わるいのは人間です。なんでドングリの木を切って、スギの木をうえたのでしょうか。人間はひどいです。

・ツキノワグマは人間にドングリをわけてもらっていました。クマがかわいかったです。ころされてかわいそうでした。とてもいろんなことを学びました。クマにきょうりよくしたいです。

・かんどうしました。ツキノワグマが死んでしまいそうと先生がいったので、かんどうしました。「生きものをたいせつにしよう」と思いました。

最後に、人間が森をこわし続けていることについて、ネイティブアメリカンの長老からみんなへのメッセージがあると述べて、シアトル首長のメッセージを紹介した。（資料5：『いきものがたり』P.40～43）

あなた方の子に伝えてほしい

大地は私たちの母であると

大地に降りかかる災いは

あまねく その子どもたちに降りかかるのだ

私たちは知っている

大地は 人のものではない
人が 大地のものなのだ
私たちは知っている
家族を 血がつないでいるように
すべての生命は つながっている
生命の織物は 人が創りあげたのではない
この織物に対する あらゆる行いは
自分自身への行いなのだ

「自分にできることを考えていきましょう」と述べて授業を閉じた。

授業者の感想=====

小学校 4 年生で、温度と生き物が密接に関係していることを学んでいる。その学習を想起しながら、温度上昇と生き物への影響を考えさせたい。多くのメディアで地球温暖化の影響が紹介されるようになったが、今後の温度上昇や生き物への影響を予想することで、多くの生き物を救うためにも、地球温暖化を防止する必要性に気づかせたい。

=====